

乳幼児期の音楽教育についての考察

長尾 洋子

はじめに

乳幼児期は、人間が誕生以来、さまざまな環境、かかわり合いの下に育まれ、成長していく中で、最も多くの、無限の「可能性」を秘めている時期といえる。乳幼児のおかれる環境は、およそ本人の意志とは無関係のものであり、また本人の選択の余地おも許されるものでないだけに、「可能性」の育成要因は、そのかかわり合いの場を作る側にある。すなわち、乳幼児のおかれた生活環境、またその中で最も多くの乳幼児との接触を持つことになる母親との「かかわり合い」のあり方によって、その可能性の萌芽育成は、多分に異なった状況を示すことになる。すべてが混頓状態にある新生児期を過ぎ、五感に感ずるすべての刺激を自身の本能的なエネルギーによって成長の糧と変じていく乳幼児期において、その媒体となる母親との「かかわり合い」の持つ意味は非常に大きなものである。

乳幼児期の音楽教育とは、いわゆる「音楽」の教育をすることでは毛頭なく、最も成長の大なるこの時期に「豊かな心」を持つ身心共に健全な人間としての「基盤」を培うことをいうのである。元来、音楽をやるということは、それに心開くことによって、その中に深く内在する昇化された精神的な生命力に感動を覚え、共感し、感得し、それらを「豊かに生きる」ための糧とすることである。「豊かに生きる心」あつての人間としての育みをすること、それが音楽教育の根本であり、特に乳幼児期においては、すべてが未分化であるだけに、乳幼児自身が、その生活自体が、その活動のからまり合い自体が、すでに音楽活動なのである。したがって、その意味においても、母親の果す役割は非常に大きいことになる。睡眠、排泄等乳児の基本的習慣を整えることへの母親のかかわり合い方、母親のふところという最も安全な心安まる環境の中で交され合うおちついた、やさしい、リズムカルな話しかけ等、乳児と母親のかかわり合いから生じる生活のリズム

感を整え、大切に育むこと、それら自体がすでに音楽教育なのである。特に乳幼児期にあつては、成長と共に多様化していく母親とのかかわり合い方が豊かな心の人間づくりへの第一歩となるのである。

研究の目的と方法

このような乳幼児期の音楽教育の見地から、母子のかかわり合い、環境は実際にはどのようなものであるか。特に、歌（メロディー、リズムをもったことばかけ）によるかかわり合いに焦点を当てて、全体的傾向を捉えると共に、年代よっての違い、また、働く母親の増えている現在、かかわり合いの時間が減少していると思われる母親達の現状、地域における差等、その実態を調査し、今後の乳幼児期の音楽教育観に加うる一考察としたい。

岡山市、倉敷市、総社市の保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学に在園、在学している子供を持つ母親（祖母）1,065名（回収率72%）に質問紙法によって、昭和56年8月～昭和57年1月にかけて調査を行った。

表I 対象者

区分 年代	年代 別	職業別		地域別			
		無 (%)	有 (%)	O市	K市	S市	不明
20代	132	73 (55.4)	59 (44.6)	37	34	41	20
30代	265	156 (58.9)	109 (41.1)	82	68	99	16
40代	227	163 (71.7)	64 (28.3)	68	59	83	17
50代	75	64 (85.4)	11 (14.6)	21	24	27	3
60代	68	58 (85.3)	10 (14.7)	20	16	27	5
計	767	514 (67.0)	253 (33.0)	228	201	277	61

結果と考察

1. 歌（メロディー、リズムを持っていることばかけ）による母子のかかわり合い。

表1-1 お子さんと遊び歌（メロディーやリズムのあることば）のようなものを口ずさみながら遊ぶ（遊んだ）ことがありますか（子供を寝かせたまま、あるいは、ひざに抱いたり、向い合せになったり、遊具を使ったりして、口ずさみながら遊ぶ）

		いいえ 全くない	いいえ ほとんどない	はい よく	はい ときどき
全体	N	15	104	191	457
	%	2.0	13.6	24.9	59.6
年代別	20	0	12.1	21.2	66.7
	30	1.1	15.1	17.0	66.8
	40	4.0	15.0	30.8	50.2
	50	0	13.3	36.0	50.7
	60	4.4	5.9	30.9	58.8
職業	無	0.6	10.8	27.2	61.3
	有	5.5	7.3	25.4	61.8
地域別	O	0	17.6	21.3	61.1
	K	5.9	11.9	30.3	51.9
	S	3.0	17.9	18.9	60.2

全体で見ると、「ときどき」の肯定も含めると84.5%の母親が歌を口ずさみながら乳幼児と何らかの遊びのかかわり合いを持っているが、今回のアンケート中の「ときどき」の判断にはあいまいな点もあるため、否定的な感覚の多い「ときどき」と肯定的な「ときどき」を区別するために、「ほとんどない」の項目を設けたのであるが、この「ときどき」の解答を含めると全体的な傾向を知ることができるが、教育的効果を持つ意味からいうと、「はい、よく」の割合を最も問題としたい。年代別に比較した場合、肯定の統計割合はほとんど変わらないが、「はい、よく」では、20代、30代が少なく、特に、30代では50代の半分という結果が出ている。5、60代の母親の時代からいうと、2、30代の母親は、子供の数も少なく、育児という教育的観念も高まっていると思われるのに、この数値の低さは

何故であろうか。子供が乳幼児期の母親の各年代別勤務状況（自営、パート等何らかの職業を持っている者を「有」とした）は、表1に見るごとく若い層になる程有職者は多く、勤務することによる子供との接触時間の少なさがその因と考えてみたが、家庭にいる母親と有職者との比較においては、ほとんど同率の母親が肯定の解答であり、これは、年代による教育的観念の違いによるものかもしれない。すなわち、子供に依頼心をつけさせないために、なるべく一人遊びをさせようという見地からの偏見とも考えられる。乳児は2、3ヶ月から聴覚、視覚が集中でき、話しかける母親をじっと見つめ、母親の働きかけに反応を示し始めるといわれている。感覚的発達を見せ始めるこの時期からの母親のリズムをもった快い話しかけ、働きかけは、乳児の情緒の安定上からも必要なものであり、また、人に対する興味もますます増えてくる5、6ヶ月に至っては、将来への健全な言語生活へもつながる喃語の発達をも促し、乳児自身より積極的活動を誘発することになる。集団遊びを必要としてくる4、5才期よりも、この乳児期から3才ぐらいまでの母親との歌あそびのかかわり合いは、そのような観点から特に意義深いものがあるだけに、2、30代の今の若い母親達には一考を要してもらいたいところである。地域別に見た場合、肯定的傾向は同じようであるが強い肯定ではK市が多くなっている。

表1-2 お子さんを寝かせる時、お母さん自身の口ずさむ子守唄のようなものを口ずさんで寝かせていますか(いましたか)。

		いいえ 全くない	いいえ ほとんどない	はい たいてい	はい ときどき
全体	N	40	153	195	379
	%	5.2	20.0	25.4	49.4
年代別	20	0	38.6	21.0	40.4
	30	7.2	23.8	18.9	50.1
	40	6.2	7.0	37.9	48.9
	50	0	17.3	23.7	59.0
	60	10.3	14.7	23.5	51.5
職業	無	2.9	28.4	21.4	47.2
	有	7.9	6.2	30.9	54.9
地域別	O	7.6	19.2	23.0	50.2
	K	7.4	15.4	31.4	45.8
	S	6.4	25.8	20.7	47.1

後の表3-1で示すごとく74.7%の母親が乳幼児を何らかの形で寝かせてつけているが、その中の74.8%の母親が子守唄を口ずさんで寝かせている。この数値は、前項の歌あそびのかかわり合いの84.5%と比較すると、やや低い割合を示している。年代別に見た場合、やはり4、5、60代に比し、2、30代においてはかなり低く、職業別にみると有職者の方にはかなり上まわった数値が出ている。これは後の質問事項にも見られるごとく、子供との接触時間の少なさからくる母子のふれあいの不足を、就寝という最も情緒の安定を必要とする時に、意図的に接触することによって、少しでも補おうとする職業を持つ母親の保育態度の表れと見ることができるのではないだろうか。地域別には、前項同様K市に肯定的数値が大でS市に少ない。

表1-3 どんな子守唄ですか(でしたか)。ふしの型の似たものを選んで下さい。(%)

		イ	ロ	ハ	ニ	ホ
全体	N	414	61	40	10	49
	%	72.1	10.7	6.9	1.8	8.5
年代別	20	67.4	11.4	14.4	0	6.8
	30	71.7	10.2	6.0	1.9	10.2
	40	79.7	11.0	2.2	4.0	3.1
	50	65.7	5.3	7.7	0	21.3
	60	67.6	16.2	7.4	0	8.8
地域別	O	70.1	9.2	7.6	1.6	11.5
	K	73.1	11.3	3.7	2.7	10.0
	S	74.9	13.7	6.4	0.8	4.2

イ. fa-fa mi, fa ra fa mi, re mi ra fa mi, ねーんねん, ころりよ, おころりよ

ロ. mi mi mi mi re, mi mi fa, mi mi ra ra si, do do si ra, ねんねんねーん, おころりよー, ぼうやはよいこだねんねしな

(イ, ロ, 共にリズムの長さをもったメロディー線の下に歌詞を書いたものを示す)

ハ. その時の即興のことばに適当なふしをつけ

た

ニ. 子供にしてやったお話に関係した歌

ホ. その他

参考までに、どのような子守唄が歌われているか調べてみたが、圧倒的に日本古来の子守唄が歌われてお

り、やはり時代を問わずこの哀感を帯びた日本的なメロディーと単調なリズム感が、日本の乳幼児の就寝時の情緒安定には適応しているようである。その他単調なふしまわしの子守唄や、母親が適当な話しかけにふしをつけたもの、あるいはシューベルト、中国地方の子守唄も歌われている。

表1-4 お子さんと一緒に歌をうたう(口ずさむ)ことがありますか(ましたか)。(%)

		いいえ 全くない	いいえ ほとんど ない	はい たいてい	はい ときどき
全体	N	17	58	268	424
	%	2.2	7.6	34.9	55.3
年代別	20	0	3.0	36.4	60.6
	30	3.0	7.9	27.2	61.9
	40	3.1	7.9	37.9	51.1
	50	0	14.7	50.7	34.7
	60	3.0	5.9	35.3	55.8
職業別	無	2.5	9.8	41.2	46.5
	有	2.9	4.7	30.7	61.7
地域別	O	0	6.4	38.1	55.4
	K	3.2	9.8	30.8	56.2
	S	4.0	6.1	29.5	60.4

肯定的な割合は90.2%と、ほとんどの母親が子供と歌をうたうことがあり、「はい、よくうたう」では、34.9%と前述の歌あそびの24.9%より多く、年代別にみた場合も、2、30代に少なかった歌あそびの割合よりは増えている。地域別に見た場合は、やはりS市が低く、前三項目共に歌によるふれ合いがS市では少ないという興味ある傾向がでている。

声というものは、人間の持っている一番身近な、しかも、一番奏で易い楽器であるだけに、ことばと音とがリズムのつながりによって生じる歌は、幼児にとって、最も素朴な単純な感情を表現できうるものである。幼児が「うたう」ということは、勿論ことばを文字的に理解するわけではなく、また、大人の感傷的な気持ちの上に立つものでもなく、幼児の体を通して、幼児の中に潜むイメージ、エネルギーを自由に発散していくものであり、そこから初めて豊かな創造が引き起こされてくるのである。幼児にあっては、リズム、メロデ

ィーを正しく、あるいは一曲を全部歌うことは困難であるだけに、母親と一緒に歌うことによって、それらを助長し、更に創造性を拡大してやるのが大切である。この場合、単に「うたう」という口先だけの動きに停まらず、特に年令が低くなる程、母子との身体運動を伴ったやりとり、すなわち、一緒に体を動かしながら、あそびながら歌うことが大切になってくる。その意味でも、前述のあそび歌を口ずさみながら遊ぶ母子のふれあいの増加を望みたい。

2. 母子のふれあい

表2-1 夜、お子さんを寝かせつける時、お母さんが寝かせつけていますか（いましたか）。 (%)

		いいえ・一人で	はい・一才まで	二才まで	三才まで	四才まで	五才まで
		N	117	171	254	164	43
全体	%	15.3	22.3	33.1	21.4	5.6	2.3
年代別	20	12.1	18.2	36.4	18.9	9.1	5.3
	30	14.0	18.1	34.0	24.9	7.9	1.1
	40	10.6	26.4	34.8	24.2	3.2	0.8
	50	28.0	28.0	25.3	13.3	4.7	0.7
	60	27.9	26.5	26.5	11.8	6.4	0.9
職業	無	21.4	17.8	32.2	17.4	9.2	2.0
	有	14.6	35.4	28.7	17.6	3.6	0.1
地域別	O	15.1	22.0	32.0	24.1	4.2	2.6
	K	14.9	23.4	36.8	19.8	3.2	1.9
	S	16.0	22.3	36.3	19.8	4.0	1.6

84.7%とかなりの母親が子供を寝かせつけている。西欧の一人寝の保育観が伝わっている現今、その割合は低いのではないかと考えていたが、実際には、5、60代の母親の方が一人寝をさせているのは、面白い現象である。職業の有無からこの相違を見ると、有職者の方が一人寝をさせている割合が少ない。これを前項と重ねて考え合わせると、2、30代の職業を持った母親は、5、60代の3倍になっている。このことは、子守唄の項と同様職業を持つことによる昼間の子供との

接触の少なさを、就寝時に補おうとする母親の意図的なかかわり合いの表れではないだろうか。寝かせつけている期間は、各年代とも2才までが多く、職業別に見ると有職者の方が1才までがやや多く、期間が短くなっている。この就寝時のかかわり合い方として、今一つ「お話をすること」については、次の様な結果がでている。

表2-2 お子さんを寝かせる時、お話をしながら寝かせますか（しましたか）。 (%)

		いいえ 全くない	いいえ ほとんどい	はい たいてい	はい ときどき
		N	13	198	177
全体	%	1.7	25.8	23.1	49.4
年代別	20	0	41.7	11.4	46.9
	30	3.0	24.9	24.1	47.9
	40	0	22.9	26.0	51.1
	50	0	21.3	26.3	52.3
	60	7.4	13.2	29.4	50.0
職業	無	3.2	20.9	25.3	50.6
	有	0.5	32.5	19.8	47.3
地域別	O	2.0	16.1	30.7	51.2
	K	1.7	23.3	26.8	48.2
	S	2.5	25.8	18.2	53.5

8、9ヶ月頃から、乳児の知覚の世界が安定してくるところから、母親の適切な働きかけを増していきたいものである。この時期の就寝時のお話しは、話の内容の具体的な理解よりも、母親の話すイントネーション、リズム等から感じられる快さ、精神的な安定感を得ることに意味があり、その「話し方」が音楽そのものなのである。しかし、総じて、子守唄を歌ったり、歌あそびをしたりすることよりは、お話をする母親の方が少なくなっており、特に、若い年代に少ない傾向にある。これらの結果から見ると、若い年代は、一人寝はさせないという物理的なかかわり合いに配慮はあるが、そのかかわり合い方、内容においては貧しい状態にあるといえる。子供が眠りに落ちてしまうまでではなく、短い時間であれ、毎日持つ就寝前の子供の成長に応じた歌やお話しによるかかわり合いの積み重ねは、創造性に富んだ精神的な母子のふれ合いを

より豊かにしていくのではないだろうか。

表2-3 お子さんをおんぶしましたか。

(%)

		いいえ 全くない	いいえ ほとんど ない	はい よく	はい ときどき
全 体	N	24	80	494	169
	%	3.1	10.4	64.5	22.0
年 代 別	20	12.2	37.1	37.1	13.6
	30	3.0	7.9	64.9	24.1
	40	0	1.8	72.2	26.0
	50	0	8.0	66.7	25.3
	60	0	0	86.8	13.2
職 業	無	3.3	13.4	63.4	19.8
	有	2.9	7.0	70.8	19.3
地 域 別	O	5.1	11.5	58.5	24.9
	K	2.1	12.8	65.4	19.7
	S	0.2	6.1	71.2	22.5

全体で64.5%の母親が「よく」おんぶしており、年代別に見た場合は、若い年代に少なく、特に20代では急激に減少している。おんぶすることによる乳児の身体的弊害感が、その因であろうと考えられるが、この日本独特の乳児との接触形態は、乳児と肌を直接接していることから生ずる乳児の安心感、情緒安定感を増大させ、また、真近く肌を通じて交される母子の応答、反応を豊かにもしていくものであり、これらの精神的な効用も見逃してはならない。

3. 乳幼児の音楽的家庭環境

歌をうたわないうちの子供はやはり少なく、テレビ漫画のテーマソングと保育園、幼稚園でうたった歌が同数でよく歌われており、歌謡歌手の歌っている歌、テレビの幼児向け番組の歌、テレビのコマーシャルソングの三領域はその約半分の割合で、地域的に見ても大差はないが、S市では、テレビのコマーシャルソングが他市より多く第3位を占めており、全体的にもマスコミの影響力の大きいことを示している。歌を歌わない母親は、子供よりは多いが1割弱であり、子供のそれとは異って、各地域とも歌謡歌手の歌っている歌が抜きんでている。

表3-1 お子さんは家でどんな歌をうたって
(口ずさんで) いますか。よく歌うもの
に3つまで○印をして下さい。

(%)

	全 体		地 域 別		
	N	%	O	K	S
ほとんど歌わない	7	0.8	0.5	0.6	1.0
テレビのまんがの テーマソング	219	31.2	35.6	31.6	30.5
歌謡歌手のうたっ ている歌	79	11.2	8.5	9.8	11.5
保育園、幼稚園で うたった歌	219	31.2	29.8	33.4	29.1
テレビ幼児向け番 組の歌	89	12.7	13.3	15.1	11.8
テレビのコマーシ ャルソング	82	11.6	6.4	8.4	16.1
そ の 他	9	1.3	5.9	1.0	0

表3-2 お母さんは家でどんな歌をうたって
(口ずさんで) いますか。3つまで○
印をして下さい。

(%)

	全 体		地 域 別		
	N	%	O	K	S
ほとんど歌わない	34	8.3	12.5	11.3	7.2
テレビのまんがの テーマソング	41	10.0	7.7	4.1	15.1
歌謡歌手のうたっ ている歌	129	31.3	26.9	28.9	36.8
保育園、幼稚園で うたった歌	66	16.0	15.4	17.3	15.8
テレビ幼児向け番 組の歌	71	17.2	17.3	18.1	15.8
テレビのコマーシ ャルソング	13	3.1	2.9	1.9	5.9
そ の 他	58	14.1	17.3	18.4	3.4

表3-3 次のテレビの音楽番組の中で、お子さんだけでなく、御家族の方々も含めてよく見ている番組に○印をして下さい。(%)

	全 体		地 域 別		
	N	%	O	K	S
音 楽 の 広 場	86	7.2	10.2	8.1	1.1
オーケストラがやってきた	73	6.1	6.3	7.7	4.7
テレビコンサート等クラシック番組	24	2.0	3.1	2.6	0.6
ピアノ(ヴァイオリン等)のおけいこ	70	5.9	8.6	7.7	4.1
おかあさんと一緒に等幼児向け番組	348	29.3	27.8	30.4	35.1
ザ・ベストテン等	351	29.6	26.9	30.1	34.6
歌謡ホール等歌謡番組	215	18.1	10.8	13.0	19.3
そ の 他	21	1.8	6.3	0.4	0.4

表3-4 お子さんと一緒に、また御家族の方でクラシック音楽を聞かれますか。(%)

	全 体		地 域 別		
	N	%	O	K	S
い い え 全 く ない	286	37.2	26.9	38.8	42.2
い い え ほとんどのない	213	27.8	30.7	20.9	29.0
はい・よく	71	9.3	11.5	11.4	4.5
は と き ど き	197	25.7	30.9	28.9	24.3

この2つの設問は、現在は乳幼児のいない家庭も対象にしている。したがって乳幼児が見ているというよりは、現在のおかれて一般的の家庭の音楽環境を示している。クラシック的音楽番組とポピュラー的音楽番組の対比的な2様を挙げてみたが、結果は圧倒的にザ・ベストテンのような歌謡番組で、クラシック系番組をはるかに上まわっている。地域的には、歌謡番組ではさほどの違いは見られないが、S市においては、クラシック系でなお低い数値がでている。表3-4に見られるごとく、クラシック音楽に触れることのない人は65%、よく聞く人は、わずか1割にも満たない数

であり、明らかな現在の風潮を示している。クラシック音楽についての論は、別稿としたいので、ここでは傾向を知るにとどめておく。

表3-5 お宅のお子さんとは何か楽器(ピアノ、オルガン、ヴァイオリン等)を習っていますか(幼少時、習っていましたか)(%)

	全 体		地 域 別		
	N	%	O	K	S
いいえ、習うつもりはない	354	46.2	38.4	44.8	52.2
いいえ、しかし習うつもりはある	176	22.9	21.8	17.9	28.5
は い	237	30.9	39.8	37.3	19.3

表3-6 お子さんが楽器を習っている(いた)のはどうしてですか(%)

	全 体		地 域 別		
	N	%	O	K	S
子供が好きだから	109	29.6	26.2	32.1	25.2
できればその道に進ませてやりたい	20	5.4	8.8	4.8	3.5
教養として習っておいた方が得	77	21.0	10.0	20.3	28.0
お友達が習っているから	6	1.6	2.1	1.8	2.0
楽しみの一つとして	144	38.8	48.4	38.1	33.6
そ の 他	13	3.6	4.5	2.9	7.7

表3-7 お母さん御自身何か楽器を弾かれますか。(%)

	全 体		地 域 別		
	N	%	O	K	S
い い え	559	72.9	61.5	68.6	79.9
いいえ、しかし習うつもりはある	48	6.3	8.1	7.5	0.8
は い	160	20.9	30.4	23.9	19.3

家庭ではほとんどクラシック音楽に触れる機会のない環境にありながら、しかも4、5才の幼児が、音楽を聞く楽しみも知らずして楽器を習うということには、大いに疑問を感じる。楽器を習う理由としては、表3-7より「楽しみの一つ」「子供が好き」「教養として習っておいた方が得」が多くあげられているが、遊びが生活である幼児にとって、楽器を習うということは、「練習」という「業」が強いられるものであるだけに、いささか安易な考えに端を発しているようで、このあたりに、後に音楽嫌いを、また音楽を楽しむことができない人間を造っている要因があるように思える。まだ手も体も未発達の子供に楽器の練習を強いるよりは、母と子が共に語り、歌い、遊び、幼児の中に潜むエネルギーを自由に、素直に、伸々と発散させ、その喜びと満足感を次の創造につないでいくことが、この時期において必要なことではないだろうか。

おわりに

今回の調査から、乳幼児への母親の音楽的かかわり合いの傾向の一端を伺い知ることができたが、乳幼児

期において、「うたう」(はなす)「動く」「感ずる」という最も原始的な表現活動を促していく要因となる基盤は、乳児にとって堅い信頼関係を結びあうことのできる人間関係にある母親とのふれあいに勝るものではなく、この点を母親達は再認識することによって、一つの生命から、より豊かな感覚、能力を引き出し、開発させていく義務感を持たなければならない。現代の激しいマスコミの攻勢の中で、一方通行的な刺激のみ乳幼児を委ねることなく、乳幼児と物と母(人)という三者のからまり合う刺激の中にこそ、より豊かな発達の芽が生じてくるのではないだろうか。個々の乳幼児の発達のテンポに歩調を合わせた日々の母親の適切な、豊かな働きかけの重なりが、より豊かな、円満な人格形成につながり、それが、乳幼児期の音楽教育であることに、より多くの母親達の目が開かれることを切望する。

最後に、今回のアンケート調査の仲介の労を煩わせた保育園、幼稚園、小、中、高、大学の諸先生方に深く御礼を申しあげたい。

参考文献

- 中西重美、玉置哲淳著、乳幼児教育の理論と展開、第一法規 (1980)
- 伊藤則博他著、子どもの発達と教育3、4 岩波講座 (1979)
- 波多野完治他著 現代教科教育学大系6、白水社 (1979)
- 美田節子著 音楽教育と人間形成 音楽の友社 (1978)
- 笥三智子著 子どもの発達と音楽 音楽の友社 (1978)
- 津守真著 乳幼児精神発達診断法 大日本図書 (1981)
- 岡村佳子訳 母子関係の出発 サイエンス社 (1980)
- 古崎愛子訳 乳幼児の知覚世界 サイエンス社 (1980)

昭和57年3月26日受理